

## 平成 30 年度 第 1 回瑞浪市男女共同参画審議会 議事概要

日 時：平成 30 年 6 月 15 日（金）午後 3 時～

場 所：市役所 4 階 全員協議会室

出席者：〈会長〉渋谷典子 〈副会長〉浅沼克郎 〈委員〉工藤美佐子、伊佐治康利、  
松原志津子、田中知己、足立美樹、伊藤正隆、本荘恵子、兼松仁美、  
西尾栄子、村瀬恵美子、中山征治、酒井正信、酒井秋子

### 1 委嘱式

事務局説明。委嘱状は机上に配付。

### 2 副市長挨拶

本日は大変お忙しい中、平成 30 年度「第 1 回瑞浪市男女共同参画審議会」にご出席いただき誠にありがとうございます。

国においては、平成 27 年 9 月に「女性活躍推進法」が施行され、同年 12 月には「第 4 次男女共同参画基本計画」が閣議決定され、男女共同参画社会の実現は、継続的に考え大変重要な施策として位置づけられている。

瑞浪市では、男女共同参画を進めるための指針となる「第 2 次みずなみ男女共同参画プラン」を、平成 26 年度からスタートさせ、男女共同参画社会推進会議の皆様にも力をお借りしながら、プランに基づく様々な取り組みをすすめてきたが、今年で 5 年目を迎え、第 2 次プランの見直しを行い、後期プランの策定をすることとした。瑞浪市でも少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会に突入しており、今後も活力ある瑞浪市を維持し、成長させていくには、女性の皆さんの活躍がますます必要と考えている。

市民意識調査では、男女ともすべての分野で「男性優遇」の意識が低下しているとの結果が出ており、男女平等は徐々に進んできていると感じているが、女性の参画を進めるために取り組むべき課題が、まだまだたくさんあることも事実である。委員の皆様は、それぞれの分野や地域でご活躍の方ばかりなので、今回策定をお願いする後期プランが、瑞浪市民にとってよりよいものとなるよう、お取りまとめをお願いしたい。

### 3 自己紹介 【資料No.1】

各委員自己紹介

### 4 会長及び副会長の選出

互選により以下のとおり決定

会長 渋谷典子氏 副会長 浅沼克郎氏

## 5 会長挨拶

計画を立てるには様々な立場の方の意見が重要。「しあわせ実感都市」を目指して男女共同参画の計画を進めていけるよう、皆さんのお力をいただきたい。

## 6 議事：以下、事務局より説明

### 1) 瑞浪市男女共同参画審議会について 【資料No.2】

質問、意見等なし

### 2) 『第2次みずなみ男女共同参画プラン（後期）』の策定について 【資料No.3.4】

〈委員〉数値目標の結果の乖離があるものの進捗状況が分からない。現状把握、や対策がまとまったものがあるのか。

〈事務局〉

現在、5年間の振返りも含めて評価をしているので、まとめ次第提供する。

〈委員〉国・県の目標値はないのか？

〈事務局〉市の目標値は国・県の数字を参考に設定している。国・県の目標値は改めて提供する。

〈議長〉第6次総合計画の中の男女共同参画の位置づけについて、適宜情報提供してほしい。

### 3) 「男女共同参画に関する市民意識調査報告書」について 【資料No.5-1.5-2】

質問、意見等なし

### 4) 国・県の『男女共同参画プラン』 【資料No.6.7】

〈議長〉県のプランの進み具合はどのようなか。

〈事務局〉平成31年度から始まる計画を現在策定中、先日、市町村への意見聴取があった。またこちらの情報も分かりしだい提供していく。

### 5) その他（意見交換）

〈委員〉選挙権も18歳からになり、若者の社会に対する意識の変革と、男女共同参画推進の流れもあり、今後、人口が減少していく中でそれを補うには、女性が社会進出して力を発揮していくための環境づくりが重要。そのためには総合的な施策と予算が必要だと思う。

〈議長〉女性が活躍出来る状況になっていると思うか。

〈委員〉何をもって「大活躍」というか分からないが、働きたい女性が気持ちよく働ける環境があるとは言いきれない状況だと思う。制度は整っているし、法律的なバックアップもあるが、実態としてはあきらめざるを得ない状況があるのは事実。理由は様々で一概にこうすれば良いとはいえないので、瑞浪市としてどこまでバックアップできるのか、これから議論していく中で、市と会社との家庭の問題の住み分けが必要だと思う。

〈委員〉男女共同参画というと大人目線で進んでしまい、親が働きに出たあとの子どもたちに対しての制度が立ち遅れている気がする。子どもの心を大切にしていかななくてはいけないと思う。

〈委員〉我が家は三世代同居で、夫の親が酪農をやっていて、自分たち夫婦は働きに出ている。夫が小さい頃も両親は忙しく働いていて、あまり遊びに連れて行ってもらったこともなかったが、常に家に家族がいて安定していた。自分たちの子どもも、両親は忙しくしているが、祖父母と牛が大好きなので、夫と同じ様に安定していると思う。同居を決める時は悩んだが、子どもを育てるには一緒に住んだ方が良かった。地域には良い子が多い。

自分は県の畜産研究所に勤めている。農業・酪農は男女関係ない。職場にも女性が増えている。

〈議長〉国も農業をすすめる事を計画に挙げている。

〈委員〉瑞浪市は兼業農家が多い。自分の家も父親は専業で農業、自分たち夫婦は兼業、子供たちは農業をやっていない。収入面を考えると農業だけでは生活出来ない。若い人たちが暮らしやすい街をつくるには、親の世代が子育てを助けることが必要だと思う。

〈委員〉男女共同参画で、男女を平等に扱うようにという方向にどんどん進んでいるが、女性の機会を増やすと男性の機会が減るのではないかと思い、個人的には抵抗がある。

〈委員〉38年間保育士として、母親の葛藤などを近くで見てきた。女性が社会的に保障されて仕事をするのも素晴らしいことだが、子ども後にしないような男女共同参画にしないと、ツケが子どもにまわってしまう。次の日本、次の瑞浪を創っていくのは子どもたちなので、今、目の前の男女共同参画も大切だが、女性が活躍出来るだけでなく、父親がどうフォロー出来るかなど、周りからのバックアップも必要だと思う。

〈委員〉まちづくりでの取り組みで、「少年育成サロン」を立ち上げて、子どもたちが下校後、親が迎えに来るまでの間、公民館で迎え入れている。地域には児童館がないため、市に頼らず地域の大人の力で何か出来ないかと考えた。次の世代の事を考えていくのが男女共同参画で大切なことだと思う。

〈委員〉だんだん核家族が増えている。同居して祖父母が孫の面倒を見れば、母親は社会へどんどん進出していけるが、それが出来ないため社会へ出て行きづらいのではないか。自分は孫の面倒を見るのに抵抗がない。色々な理由があるとは思いますが、なぜ同居出来ないのかと考えてしまう。

〈委員〉孫の面倒を自分でみている方、地域でみている方、それぞれの視点が融合してくるといいと感じる。

〈委員〉電気工事業を営んでいる。男女共同参画ということで、現場に女性の監督が増え、奥さんを連れてきて仕事をする職人も見かけるが、子どもはどうしているのだろうと思う。PTAの役員をお願いするときも、「夫婦で働いていて、夜の会議には出られない。」と断られてしまい困っている。

〈委員〉男女共同参画社会推進会議に参加してきて、子どもをすぐに預けてしまうのが本当にいいのかと思っていた。自分は夫婦ともに教員として働いていて、

子ども達は実の祖父母にみてもらいたいと思い、妻の実家の近くに住んでいた。現在、子ども達は遠くに住んでいて同居していないが、孫が学童に行っている様子などを聞くと、学童も中身が充実していて、その中での人間関係や学びもあり、これもありかなと思えてきた。ただ、この子たちが次の世代になったときに、日本がどんな社会になっているのか。まだ見えないことだが、どう考えて子育てをしていくかは、それぞれの教育観や生き方によるので大変難しい。

#### 事務連絡

- 配付資料の説明
  - ◇ひとりひとりが幸せな社会のために（パンフレット）
  - ◇ちょっといい話
  - ◇第38回瑞浪市人権書道展募集要項
- 次回は9月開催予定

#### 閉会のあいさつ

以上